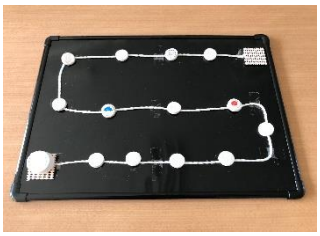
教材・支援機器活用実践事例

【見え方の状態が違う児童同士がともに活動できるための支援】

	実施年度	平成２９年度
授業について	教科名等	生活単元学習
	単元・題材名	すごろくであそぼう
	授業における教師のねらい	○すごろくのルールが分かり、少ない支援で児童が一人でゲームに取り組むことができる。
	授業における子どもの目標	○すごろくのやり方やルールが分かり、すごろく遊びをすることができる。 ○すごろく遊びを通して楽しみを見つけたり、遊び方の意見を出したりしながら取り組むことができる。
子どもについて	学級・学校・学年	特別支援学校　小学部　重複障がい学級
	対象の障がい	視覚障がい（弱視、全盲）、知的障がい
	授業形態	集団学習
学習上又は生活上の困難さ	子どもの特性や教育的ニーズ	・児童の見え方の状態により、見る、触るなど情報を得る手段が異なる。言葉は知っていても実物や内容を理解していないことが多く、よく見ることや、よく触る中で理解を深めていく必要がある。また視覚や触覚などを活用する力についても、経験を重ねていく中で伸ばしていく必要がある。
教材・支援機器活用	使用した支援機器・教材の名称	すごろくボード サイコロ（３種類） 大きな●表示、点字（数字）、丸形のフェルトがついたもの 【画像】 
	活用のねらい	・以前、小学校との交流学習で、すごろくに取り組んだことがある児童がいたが、サイコロを振ってゴールに向かうという概要は分かっていても、ルールの理解が不十分であった。そこで今回は、一人一人にボードを使用することで、コース全体を把握したり、駒の進み方を確認したりしながら、ルールを確認して取り組むことができるようにした。すごろくの基本を学び、みんなで同じボードを囲むすごろくや、人がコマになる大型のすごろくなどにも発展させていきたい。
授業における支援 ・教材の配慮事項		・コースの全体像を把握するために、一人１枚ずつボードを用意する。 ・ゴールまでを紐でたどれるようにする。マスについても、種類ごとに、色や触感などを変えたり、点字を貼ったりすることでどの児童にも違いが分かりやすくなるように工夫した。 ・マスに磁石を使用することで、マスの配置を換えたり、増やしたりすることができるようにして活動を広げられるようにした。 ・サイコロは、●の数を見て確認する児童、触って確認する児童、また点字を読んで数を確認する児童など、一人一人の見え方の状態に応じたものを用意した。
子どもの変容や評価		・児童一人一人がコースの全体のイメージをもち、ルールも理解して取り組むことができた。 ・活動が展開する中で、あといくつでゴールになるのかを考えてサイコロを投げたり、「１回休み」などのイベントマスを自分たちで考えたりしながらすごろくを楽しむようになった。また、ボードを複数人で共有しても、楽しみながら取り組むことができるようになった。改めて交流学習にも取り入れていきたい。